

平成 2 9 年第 3 回中津川市教育委員会（定例会）議事録（要旨）

日 時 平成 2 9 年 3 月 3 日（金） 午後 1 時 3 0 分

場 所 にぎわいプラザ 4－1 会議室

出席委員 小栗 仁志 田島 雅子 小幡 隆徳
林 由美 大井 文高

事務職員 早川事務局長・大巾文化スポーツ部長・原教育次長兼学校教育課長
今井事務局次長兼教育企画課長・末木文化スポーツ部次長
西尾教育研修所長・小椋幼児教育課長・足立子育て政策室長
山下発達支援センター所長・西尾阿木高等学校事務長
吉村施設計画推進室長・二村図書館長兼蛭川済美図書館長
川合文化振興課長兼市史編さん室長・川上鉱物博物館長
糸魚川生涯学習スポーツ課長・宮嶋中央公民館長

会議日程 1 開 会
2 前回議事録の承認
3 議 事
4 閉 会

番 号	議 題	結 果
議第 5 号	平成 2 9 年度中津川市教育委員会の方針と重点について	承 認
議第 6 号	平成 2 9 年度県費負担教職員の任免等の内申について	承 認

【開 会】

【議 事】

【委員長】議事に入ります。日程第1、議第5号 平成29年度中津川市教育委員会の方針と重点について、提案説明をお願いします。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

【委員長】ご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】質問には答えてはいただけたと思いますが、私たちが今からお願いしたことに対しては、変わっていくということはないわけですね。

【委員長】今井事務局次長。

【事務局次長】大筋の方針と重点として、お示ししています。具体的な方法としては、いろいろな対応策がその都度問われる部分もあるかと思うので、そういったところでは柔軟な態勢をとっていきたいと考えています。

【田島委員】6ページ、生徒指導の2項目目、「教育活動全体を通して」は、生徒さんに対しての規律・規範だと思いますが、常々感じていることは、児童・生徒の方々は、学校で教えてもらった規律を非常に守っておられます。横断歩道もちろんと渡れるし、横断歩道で私たちが止まったら頭を下げてくれるし、入ってはいけないところには入らない。そういう規律をちゃんと守っているのに、親と一緒に行動しているときは守ってないシーンがとてたくさんあります。それはもちろん親が一緒ということです。赤信号を渡ってしまうとか、横断歩道でないところを渡ってしまうとか、割り込みをしたり、身障者用の駐車場に親が停める。一人のときは規律正しくやっている子どもが、親と一緒にのときは違反しているというシーンをたくさん見ます。こういうことについて、お考えを教えてください。

【委員長】原教育次長。

【教育次長】同じようなことを日常よく感じるがありますし、必要性を感じております。学校でできることと社会全体に呼びかけることがあるかと思っています。1点目の学校でできることでは、子どもたちを育てるときに、学校ではそういうふうに育てるわけですが、やはり家族、大人も子どもと一緒に育つという面がどれだけか大事だと思っています。家庭習慣を身に付けること、あるいは日常の生活規範、そうしたことを示す大人であってこそ、子どもはより成長すると思いますので、学校が主体となってできることは、子どもも育ちますが親も一緒に育ちましょうと一層呼びかけていくことが大事かと思っています。2点目は、社会全体でその部分を大事にしていくことが必要だと思っています。たとえば、市全体で市民憲章のような形で、誇りの持てる生活規範、美しい自然を愛する子どもを育てましょうとか、そうした大人になりましょうというような呼びかけなども一つの方法かなと思います。市民憲章等あるかもしれませんが、中津川市ぐるみでそうした大人になるとか子どもを育てるとか、社会をつくるという動きには、まだまだ課題がある

と思いますので、教育委員会が他の部局と連携しながら、呼びかけをしていくことが一層大事になりますし、今後そうした歩み出しをしていきたいと思います。

【委員長】今井事務局次長。

【事務局次長】付け加えて申し上げます。やはり、家庭での教育、地域の教育が大切な部分になってくると考えています。所管としては、生涯学習スポーツ課も家庭教育、地域教育に携わっている部署ですので、そういったところと連携を取りながら、家庭教育、地域教育、学校教育のそれぞれの役割を果たす上で連携することが社会づくりの一番大切な教育の場面だと考えています。携わる部署についても連携を取って、これから取り組んでいければと考えています。

【田島委員】まさに人づくり、大人づくりというところが、文化スポーツ部の方針にも入っていますので、強い連携をお願いしたいと思います。

【委員長】大井教育長。

【教育長】これは委員の皆様にもお願いしたいことです。中津川市には青少年健全育成推進市民会議もあります。安全安心まちづくり市民会議もあります。その中には、委員としてご参加いただいている部分もありますので、そういった場でも声を出していただいて、こうした組織が組織として動きを作ること大事だと思っています。PTAに関わっては学力アッププログラムの取り組みをしてもらっています。そのつながりでPTAとしても動いてもらうという働きかけはしていかなければいけないと思います。その部分も含めていろいろな場で働きかけていくことが必要だと思っています。私は議会ではいつも、議員から質問があると、まず大人がやらなければいけないということは必ず答弁していますので、お願いいたします。

【委員長】田島委員。

【田島委員】関連して6ページ、健康・安全教育の中に「地域ぐるみで児童生徒の命を守りきる指導」とあります。地域ぐるみとは、大人ぐるみということだと思います。8ページの地域力の活用の中にも、地域の方に「子育てに責任をもつ」という非常に重い言葉が書いてあります。この書面だけではなく、青少年育成健全会議や大人が出席するいろいろな会議で、その人たちだけではなく、市民の方々に下ろして自覚を持っていただくことは本当に大事なことだと思いますので、できるだけ努力して、地域の方々の力、大人の力をしっかりといただけるように方向付けていただきたいと思います。

【委員長】そのほかございますか。小幡委員。

【小幡委員】お願いとして。方針と重点の中で教育界にある今日的な課題、喫緊な課題をきちんと捉えて、重点的な課題を「・」で示しながら、このようにやっていきますということをきちんと示してあり、全体的に見て非常にまとまった方針と重点になっていると思います。これらを通して、8ページに「全教育活動を通して、特に配慮したいこと」という形でまとめてあります。このように全部網羅してある

もの、こういったことに絞ってここは特に全教育活動としてやっていくということで、中津川市の学校・園が共通の課題として取り組んでくだされば本当に力強いと思います。

もう1点、今学力で一点突破ということできちんとした指導をそれぞれの学校に行き渡らせてくださっています。同じように全教育活動を通して、特に配慮することの中で、学力アッププログラムについて、どの学校も帰ってからの家庭学習のあり方については、低学年、中学年、高学年と学年を追ってこんなふうに中津川市はやっていきますというあたりまで具体的な指導が入るように計画してくださる、そういう指導がこれから求められていくと思いましたので、お願いとして述べました。

【委員長】西尾教育研修所長。

【教研所長】市では学力アッププログラム委員会を立ち上げ、その中で毎年学力アッププログラムの取り組みについて精査し、力強く進めているところです。今教えてくださったような発達段階に応じてどこまで求めていくかといったところについては、今幼保小中の連携の中でそれぞれの地域ごとにそういったことが話し合われて、一緒に取り組もうとされているところが増えてきていますので、そういった様子をお聞きしながら、市として大切にしたいところも再度指導したいと考えています。

【委員長】大井教育長。

【教育長】これは私ももう少しきっちりしておかないといけなかったと思います。先ほど委員長のごあいさつにもありました。学校で子どもにつく時間、触れ合うとか語り合う時間をきちんと取るというところは、この中でしっかり肝に銘じていけるようにしていきたいと思っております。

【委員長】そのほかよろしいでしょうか。田島委員。

【田島委員】この方針と重点は、指導する方々の手にはしっかり入っていて、今年一年のバイブルとしてこれを進めていくということで、去年一年間終わってどんな状態だったかを教えていただいたという話を聞きました。一年間というのは大変長くて、特に幼児教育では成長が著しいこともありますので、先生方、指導者の方が途中で振り返る時間を作るように指導していただけると、また自分の足場が固まっていくのではないかと思います。いかがでしょうか。

【委員長】小椋幼児教育課長。

【幼教課長】確かに幼児期では1年の成長が大きく変わってくる部分もありますし、一人一人の成長具合も変わってきますので、研修と併せてそれぞれの保育士が自分の担任のクラスの状況や参考事例を園内で研修して、情報交換と振り返りを行うと同時に、全ての園が集まって、たとえば同じ5歳児の担任同士が情報交換をしたり振り返りをする機会を、今も設けていますが、その重要性をまた深めていきたいと思っております。

【委員長】 そのほかよろしいでしょうか。

それでは、文化スポーツ部に関するところで何かございましたらお願いします。
田島委員。

【田島委員】 10ページ、親子が幸せに育つ家庭教育で教育委員会の家庭学習というのはとてもよく分かりますが、家庭教育という意味を教えてください。

【委員長】 糸魚川生涯学習スポーツ課長。

【生ス課長】 子育てを初めとする地域の連携もそうですが、3歳までの子どもを育てるところを中心に、家庭で親が育てていく中での教育という部分だと考えています。

【委員長】 今井事務局次長。

【事務局次長】 3歳までではなく、一つの家族を構成している中でのそれぞれの世代からの教え伝えていくという、一番小規模な教育システムだと考えていただければいいと思います。その中には躰も入っていますし、箸の使い方なども家庭の教育の一つだと考えていただければいいと思います。

付け加えて、家庭教育支援員とは、行政が家庭教育をするわけではなくて、家庭教育を支援する仕事になります。今は具体的な動きでは支援員を1人配置しています。支援員は家庭教育の大切さを特に理解しながら、いかに各家庭への働きかけをするかを考えて、行政の仕事に反映させる仕事をしていただいています。

【委員長】 田島委員。

【田島委員】 これがさっきの大人の教育にもつながってくることですよね。この間、林委員が南小学校に行ったときに鉛筆の持ち方がバラバラだったので「今は自由ですか」とおっしゃいました。私も全くその通りかなと。あの感じ方をさせてしまうということは、家庭教育の一番大事なところで、学校で鉛筆は持つけどしょっちゅう先生がそばにいて「持ち方が違う」と言えないので、一番身近にいる親が鉛筆の持ち方や、ひじを突いて食べないとか、箸はしっかり持てるようにとか、社会で役立つ、その子が生きていて恥をかかないことを教えなければいけない世の中になっています。それをいかにして伝えていくかが大きな課題だと思います。先ほど原教育次長がおっしゃった、中津川市として大きな目標のような形で、大人、親、家庭教育を指導していくことも考えていかなければいけない時期になっていると思いますので心配しています。

【委員長】 糸魚川生涯学習スポーツ課長。

【生ス課長】 今言われたことをしっかり勉強しながらやっていきたいと思っています。

委員長 今の話の中で、学校教育でも家庭教育でも大切で、地域、それはすごく密接な関わりがあります。一つ事例をあげます。うちの子の話です。うちの子が小学校に上がる前に鉛筆の持ち方を家ではやっていたわけですが、でもなかなかうまく持てなかった。ですけど、小学校に上がって1年生で教えてもらったときに、すごく

上手に持てるようになったんです。何でだろうと思った時に、家庭では甘えがあるけど、学校だとみんながやってるからという集団教育のいいところで、それと親が言うとかえがあるけど、先生に言われるとすんなり聞き入れられるところがあって、私の中で、小学校1年に上がったとき、すごく衝撃だったんです。やっぱり学校ってすごいなと思ったときがありました。学校で教えるべきこと、家庭で教えるべきこと、いろいろあると思いますけど、家庭だけではだめで、それが学校だけでもだめで、その地域も含めてのいろいろなところで支え合いながら、それぞれみんなが教育をしながらというところをやっていくことが、子どもに対しても大人に対してもすごく重要なのかなと思います。今回のこともそうですけど、教育委員会、また文化スポーツ部に関しても、子ども、大人はありますけど、中津川市民がいろいろな形で教育を受けていくという意味では、いろいろなところが連携を取りながらやっていかないといけないということです。29年度に関しても、ぜひ横の連携もしっかり取りながら進めてたいと思います。よろしくお願いします。

【委員長】そのほか文化スポーツでよろしいですか。田島委員。

【田島委員】今年はまだこれで変わらないと思いますけど、ぜひやってほしいことがあります。スポーツ団体の指導者、芸能団体の指導者、中津川にはたくさんのスポーツ団体があり、商売で子どもたちにいろいろなものを教えている方もいます。たとえばダンスやバレエ等。指導者はとてもたくさんいて、そういう方々の連携や、大人として子どもたちを集めてそこで教えてほしいことを伝えることはできないのかなと常々思っています。

一つの例ですが、私は芸能関係をやっていますが、ある催し物のときに、楽屋が獅子舞は獅子舞で一緒だったんです。前の獅子舞が出ていくと次の獅子舞の子たちが入ってくる。黒板を見たら、前の獅子舞の子たちの「何とか獅子死ね」「何とか獅子ばかやろう」ということが書いてありました。これは何だと。

結局、指導者は技術向上とか演技をうまくすることに対してはすごく熱があると思います。でも楽屋で草履を揃えとか他の団体に対してあいさつをするということに対してはほとんど指導してないところもあります。子ども金メダルを見ていても分かると思います。子ども金メダルのときも、指導者がきちんとしているところはきれいに整列していてあいさつもちゃんとできています。

そういうところを見ると、やっぱり少子化で大人も子どもに関わるのが少なくなっているとは思いますが、指導者が統一した指導方法、規範意識をしっかり持って、子どもたちに伝えていくことはとても大事だと思います。プロは違うと思います。プロは勝てばいいとかうまければいいとかになるとは思いますけど、あくまでもスポーツも芸能もアマチュアで、そこではやはり子どもたちが生きていくことに対するたくさんの情報や教えることはとても大事なことでと思います。

常々、子どもに関わる団体の指導員さんたちに、できれば教育委員会・文化スポ

一つの方針を知ってもらった上で指導してくださいという会を設けてほしいと思っておりました。いかがでしょうか。

【委員長】小幡委員。

【小幡委員】私も最後のところで質問しようと思ったところですけど、今中津川市の中で、私が教育委員をずっとやらせてもらいながら一番有り難かったのは、いじめの事案で大きな問題にならなかったことです。皆さんで頑張ってもらったおかげだと思います。やはり世間を騒がせた子どもの事案は、いじめに関わることはほとんど大人の反映です。そういったことを考えると、13ページの人権教育の推進で、特に「指導者研修の実施」や「連携」ということがありますが、全てのことをけなす大人が多いことを非常に思います。いいところを見ればいいのに、必ずけなしていく。それを共有して、自分たちはまだいいよなという生き方。非常に後ろ向きの生き方だと思いますが、そういう成人が多いと思います。それを何とかして、よそを認めてほめていくという地域性を生み出せていけたら、大人が子どもに「いじめな」と言うのではなく、どういうふうにしたらいじめないか、どういうふうにしたら友だちに優しく接しられるか、仲間を見ていけるかということを、身をもって教えていけると思います。今そういう生き方のできる人が非常に少なくなってきました。田島委員のおっしゃる通り、特に子どもに接する人たちの教育、研修が非常に大事だと思います。このあたりどのようにして進めていただけるのか、質問しようと思っていました。

【委員長】糸魚川生涯学習スポーツ課長。

【生ス課長】田島委員のご質問ですが、スポーツ少年団の指導員、スポーツクラブの指導員に対しては、その上部組織からの講習、研修等の依頼があつてそちらへ参加することはしていますが、中津川市の中でやっているということは現状ではありません。28年度スポーツ推進計画の中で、スポーツ指導者バンクというものを立ち上げ、現在スポーツ指導者がどれだけいるかは、計画の中で実施してホームページにも載せています。その後の話になると思いますので、今後、子どもたちへの指導の仕方などの研修も進めていきたいと考えます。

【文振課長】田島委員が獅子舞と言われました。僕の知っている獅子舞の男性で大変厳しい人が1人いらして、まさか獅子舞でそんな子どもがいるとは思いませんでした。子どもは文化団体の子どものいるところと関わるのが少ないのですが、中には子ども教室で相談を受けることがあります。全部いっぺんにということは難しいかもしれませんが、関わりのあるところを中心に、社会的なマナー、ルールを守っていただくように、指導者へ何かの機会に子どもたちを見てくださいというお願いはしていきたいと思います。

うちの子どもは文科系の経験がなく全部運動系なんですけど、小さい頃は空手、中学では野球をやっていました。どちらも躰には非常に厳しかったので、ちょっと意

地悪なことをするとすぐ指導者から親に連絡が来ました。中にはそういう指導者の方もいらっしゃることを付け加えたいと思います。

【委員長】糸魚川生涯学習スポーツ課長。

【生ス課長】小幡委員からのご質問の人権の推進についてですが、こちらで取り組んでいるものは、社会を明るくする運動、青少年健全育成の研修というところまでで、いじめの問題は安心安全の部会に出席して、そこで把握するというのが一番早くて、ほかからの情報はなかなか難しいのが現状です。

【委員長】今井事務局次長。

【事務局次長】委員の問題提起に対して、生涯学習の事業担当者からの対応は、基本的に子どもに対してはほめたたえるという場面を多く作って行って、自身の自信を高めていくという施策もあります。大人に対してもやはりいろいろな活動の中でそれをたたえるような施策を数多く機会を作っていくことで、人をけなすより自身の自信をつけていく場面を多くしていくことが、今できる最善の方法かと考えます。

【委員長】小幡委員。

【小幡委員】全くその通りだと思います。いろいろな生涯学習、スポーツの指導には大人の指導者がいるわけですが、技術的なことは競技団体も芸能もプロが専門職として教えるでしょうけど、子どもたちにどうしても大事にしてもらいたい心のようなものは、いくら技量にたけた人でもそういった点で必ずいいとは限らない。なぜそういう指導の仕方が子どもたちにいじめを生むとか、今の対応が良くないということに気づいてもらえるような大人にするということは、私たち大人の責任だと思います。今井次長がおっしゃるように、いろいろな場を通して、地域や大人の会合でもそうですし、子どもに接する人たちの学習の機会を広げていくことが大事だと思います。事あるところでそんなことが広がっていく形になるといいと思っています。

【委員長】田島委員。

【田島委員】「あったかい言葉かけ運動」ってご存じですよ。2007年ぐらいから県が推進してやっていて、とてもすばらしいものだと思います。よその地域からの情報はあるけど、中津川でそういうのを聞いたことがない。人を下に見ておれのところはまだましだよと、そういう方々に指導していただくよりも、どれだけ温かい言葉がかけられたか、温かい言葉を私はかけたかとか、そういうレベルに上がっていったいただくためには、こういうものを活用するという手もあるんですけどいかがでしょうか。

【委員長】今井事務局次長。

【事務局次長】「あったかい言葉かけ運動」は、県の小中高校生徒指導協議会が主体となって取り組んでいて、ここ数年、中津川市でもそういった言葉の募集を実践しているところはかなり多くなってきております。それ以上に表立ったところもない

んですが、地道に活動が広がっています。

【委員長】田島委員。

【田島委員】確かに一中、二中など中学校を訪問したときには温かい言葉というのが廊下に貼ってあって、今日はどれだけ温かい言葉がかけられたとかが自分の目標にもなっていて、子どもたちはあちらこちらで重んじてやっているところがあります。中津川市全体でそういうことをやってみようという機運にもってってもらえば、子どもたちがやっていたことが正当化され、それをやっていた子どもたちは、自分たちがやっていたことは間違いじゃない。中津川市がやっている、大きなところも認めてくれているということで、これも一つの自信になったり、成長するのにすごく力になります。温かい言葉がけというのに着目していただくのも手かと思います。

【委員長】糸魚川生涯学習スポーツ課長。

【生ス課長】やはりその場でやられるだけで、実際にこちらでも聞くだけの話になってしまっていますので、その辺を進めていくように考えたいと思います。

【委員長】大井教育長。

【教育長】今ご質問いただいた中で、やはり根本的なところが欠けているということを実感しました。言葉の定義付けができていない。たとえば「いきいきした人づくり」と大きな字で書いてあるんですけど、いきいきした人って何なのというところの中に、大人は完ぺきなものだという考え方がどこかにあるんじゃないか。つまり、どの年代層に対しても、こんな人になってほしいという願いがきちんとなければいけないだろうと。ということは、子どもを育てる役割を持っている大人もどういう大人でなければならないかという、この辺がきちんとうたわわれているようなものにならないといけない。それが人権意識にもつながっていると感じました。

たとえば「あったかい言葉かけ運動」というのでは、生徒指導の連絡協議会などに青少年健全育成推進指導員も入っているんです。つまり、青少年健全育成でも十分承知していることです。ということになれば、これは学校だけでなく地域社会の運動になっていかなければいけない。その部分で、教育委員会事務局も子どもの部分だけになってしまったところをもっと広げてやらないといけないということを感じました。

あわせて、先ほどの「家庭教育とは何なの」と言われたら説明ができないのでは全然お話になりません。方針と重点の中に教育と学習という2つの言葉があります。教育と学習は主体者が違うということです。教育は「教え育てる」ですから、仕組む方の立場で言っています。学習は主体者、学習そのものに参加する自分自身なんです。家庭教育という場合には親の役割、家族の役割、子育てのあり方、手立て、あるいは理念というようなものを学び合い考え合うような機会を提供したり支援したりしていくというものです。それに参加する人たちは家庭のあり方を学ぶ、生涯

学習の方になると思います。そういうきちんとしたものを持たないといけないということを感じましたし、またそれを私自身が十分指導しきれてないということを改めて感じましたので、さらに進めていきたいと思っております。

【委員長】 そのほかよろしいでしょうか。田島委員。

【田島委員】 スポーツ推進のところで伺います。これもずっと考えていたことです。早川さんが健康福祉部のベテランでした。健康診断とスポーツと8万人のヘルスアップがタイアップできないものかと考えていたんです。健康診断をするとA B C Dと判定が来ます。その判定だけではなくて「あなたはこのスポーツが合います」とか、「あなたの今の状況ではこのスポーツをするといいですよ」という診断が付いてくる。それで「それはどこへ行くといいですか」と言うと文化スポーツ部が案内するというふうに連携することはできないでしょうか。

【委員長】 早川事務局長。

【事務局長】 まず、健康診断自体がいろいろな種類のものがあり、市でやっているのは国保の特定健診だけなんです。企業の健康診断や高齢者の診断などいろいろありますが、それらが連携されていないのが現状です。市でやっている特定健診でいうと、お勤めの方は職場で検診を受けるので60以上の方が大変多く、あるいは若い人でも自営業者の方などはあるんですけど、検診結果を見ると8割は何らかの異常がある方々で、スポーツとはかけ離れたレベルです。それで、介護予防やメタボにもうなっている人をこれ以上悪化させないように糖尿病教室に来てくださいというようなことは指導しますが、積極的なスポーツというのは難しいんです。そうして、市の健診と企業などでやっている健診とがマッチしていないので、若い人たちはもう少し健診結果はいいんですが、その結果は会社や健保組合に任されているので、情報が市に来ていません。スポーツとの連携は難しい状況です。

【委員長】 林委員。

【林委員】 企業では健診があって、産業医の先生が指導した方がいい人に数回重ねて会ったり、もう少し運動をとかたばこをやめなさいと言ってくれることがあるんですけど、中津川市でやるのは高齢の人で、どこか故障が見受けられるということですが、少し若返るためにこうしたらという、まだ楽しく生きて過ごすためのきっかけ、提案というのをささやく程度にされたらいいと思います。頑張っってやりなさいというのではなくちょっと優しい感じで。

【委員長】 早川事務局長。

【事務局長】 市の健診を受けていただいている方にはできるだけそういった指導を今もやってはいますが、一層進めていきたいと思えます。ただ、これから高齢化が進みますので、予防第一で今8万人のヘルスアップも進めていますので、元気な人はますます健康維持をしていただくように、ちょっと問題のある人はなるべく改善していくように、高齢の方でも寝たきりにならないように介護予防の取り組みもし

ています。これからヘルスアップを進めていきたいと思っています。

あと、企業とのコラボも担当部局では力を入れているところで、健診が違うので難しいんですが、たとえばたばこをやめたい人には個別の相談に乗ったりしますし、禁煙教室などを開催してどなたでもどうぞということでやっているときもあります。保険が違うから受けられないというものはないので、いろいろなことで、健康医療課などと健康づくりを進めていきたいと思っています。

【委員長】林委員。

【林委員】他県におばが住んでおり、歩いて行ける距離の公園で皆さんラジオ体操をずっとやっているんだそうです。そこで交流もあって、その後、お茶しましょうみたいにお友だちができたり、野菜を作るにはこうした方がいいとか、切り花の交換をしたり、すごくいいコミュニケーションができています。おばたちだと、スポーツジムに行くほどの気力はないけど朝1回のラジオ体操だけでも、今日はできたわという気持ちと、近所の人とお話できるというのは楽しいということで、そういうことも中津川でもできたらいいと思います。また、台湾に行くと公園に運動するものが置いてあって、太極拳の後みんなやっていたりするのを見ます。お金を使ってそこまで行ってやるほどでもないけど、何かしたいという人は年齢を重ねても多分いらっしゃると思うんです。なので、そういうものをちょっと考えて、提案し、設置できたらいいかなと思います。市役所の前にも広いところもあるし公園もありますから。

【委員長】大巾文化スポーツ部長。

【文ス部長】林委員が言われたことが、ちょうど一般質問が出ています。健康福祉部として、高齢者対策の器具の設置についてどうですかというご質問だったんですけど、現状ではなかなか子どもを使ったりして、双方の関係を見ると難しいのではないかという見解です。ただし、自宅でもできるような方法もありますので、そういったものは推進していきたいと考えています。

【委員長】田島委員。

【田島委員】いずれにしても、中津川が目玉として8万人のヘルスアップ事業を打ち出しているわけです。議会でも8万人のヘルスアップポロシャツを着て大々的に皆さんが認識して打ち出しているので、待っているだけではなく、文化スポーツ部としても提案して連携を図っていくことを、できるだけ強く積極的にやっていかないと、中津川市の事業にはならないと思いますので、よろしくお願いします。

【委員長】大巾文化スポーツ部長。

【文ス部長】田島委員がおっしゃる通りです。議会からもそういった意見を伺っております。そういった中で我々の部としても、たとえば28年度に落合の石畳マレットゴルフ場を造りましたが、現在健康福祉部と連携しながら会員の推進もお願いしたいという形で、何とか目に見える結果が出る方法を取りたいと考えています。

委員長 私から一つだけ意見を。今の話ですが、ヘルスアップ事業をやりますよというとなかなか集まりにくいのかなというの也有ります。企画することも大切だと思いますし、もともと人が集まるようなところに出向いて、ちょっと時間取ってと言って、そこでみんなで体操すると考えという形の方が手っ取り早いんじゃないかという気がします。いろいろな集まりがあると思います。地域でもありますし、青少年健全育成の大会でも100名弱の人が集まります。そのときに5分、10分の時間をもらって体操するとか。要は、市民が何かしらの形で携われるような形を作れば良いと思います。いろいろな集まりとタイアップして入り込んでいくことも一つかなという気がします。そのほかよろしいでしょうか。

それでは、ないようですので、日程第1、議第5号 平成29年度中津川市教育委員会の方針と重点について、を承認とさせていただきます。

続きまして、日程第2、議第6号 平成29年度県費負担教職員の任免等の内申について、提案説明をお願いします。大井教育長。

【教育長】提案に先立ち、本議案は県教育委員会との協議調整の下に進めていくという内容ですので、まだ意思決定期間中ということで、非公開ということをお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員長】教育長から非公開での審議ということでご提案がありました。いかがでしょうか。

それでは、日程第2、議第6号は非公開で進めさせていただきます。よろしくお願いします。提案説明をお願いします。原教育次長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】それでは、ただいまの議案につきまして、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】この中で、再任用の方は何人ぐらいおられますか。

【委員長】原教育次長。

【教育次長】(2)の転入120名の横、再任用7名です。そのほかに教諭以外で事務官が1名で合計8名ですが、私どもとしては非常に人的に少ないので大変有り難いと思っています。今後も増えていただくと有り難いと思います。

【田島委員】再任用の方々は試験を受けられて、再任用されているわけですね。熱意が非常に高い方々だとお見受けできるんですが、退職された方々はもっとたくさんおられるわけですね。せっかくのベテランの方々に試験を受けて再任していただいて、大勢の新採の方々のお手本になっていただくというのは、大変難しいことだと思うんですが、働きかけというのはどんどんしていただきたいと思います。

【教育次長】おっしゃる通りで、志を高くしてやっていただくということになると思います。校長、教頭、管理職を含め今年退職される方が今のところ32名です。その中で教諭は18名で、そのうち再任用で7名です。岐阜県内、東濃地区でも再

任用の率としては高い方ですので、今後も校長を通じて呼びかけていきたいと思っています。

【委員長】大井教育長。

【教育長】退職者の働き方はいろいろあります。再任用だけではないんです。講師という形で入ってもらえる人もかなり何人もあります。そのほかには中津川市は市費のアシスタントなどもあり、そちらで活躍してくださる方もあるので、かなりの比率で退職者も学校の教育現場で頑張ってくれているということです。

委員長 林委員。この当欠というのは、当初から教育に配置できずに臨時に回ってくださいという新人さんのことですか。たくさんいらっしゃるんですね。17人、20人と。この理由は何ですか。ポストがないということですか。

【委員長】原教育次長。

【教育次長】基本的には、当欠講師といって県費の教諭にはまだ採用されていない方が、県費の講師になります。どうして講師が必要になるかは、大きく理由が2つあります。一つ目は、その教科、あるいは小学校でいう教諭、中学校でいうその教科の教諭がいなかったりすることです。もう一つは、非常に微妙な問題ですが、たとえば41人ですと2クラスですが40人だと1クラスになってしまいます。そうしたときに、3月末で40人になった場合に、教員が1人になります。そうすると、教員を1人辞めさせるということはできませんので、講師を配置しておくということもあります。中津川市は41人とか81人、複式学級では16人と15人というような、1人違うと教員が1人減るというようなところがあり、どうしても講師を配置しなければいけない。もし人数が減ったら講師の人には学校ではなくほかのところでやっていただくということです。機械的に切ることはしませんので、どうしても必要が出てきます。

【委員長】林委員。

【林委員】意味は分かりました。そうすると、臨時職員に配置された方は、中津川市で先生になりたいと思っていて待っていたら、来年はチャンスがありますか。

【委員長】原教育次長。

【教育次長】その通りです。講師の多くは教員採用試験を受けて受かっていきます。実際に中津川市から10名前後が毎年受かっていきます。加えて、こうした方たちに力を付けていただいて中津川市から先生になっていただくということで、中津川市としては年何回か勉強会、指導力を付ける勉強会、教員採用試験のための勉強会を開催しており、ぜひ講師から教員になってほしいと思っています。

【林委員】それでほっとしました。やりたいという熱意があるし、それが中津川に定着するし、すぐにポジションが与えてもらえなかった分、1年間が無駄にならないような感じなら、また翌年の4月から本当に頑張れるような気がします。期待します。

【教育次長】本当にその通りで、一人でも多くと考えています。今年は、講師をやっていた47歳の方が中津川から教員になっていきまして、昨年受からなかったけど今年チャレンジしようという人も29年度におりますので、応援していきたいと思います。

【委員長】そのほかございますか。

それではないようですので、日程第2、議第6号 平成29年度県費負担教職員の任免等の内申について、を承認とさせていただきます。

以上で議題が終わりました。次回の日程をお願いします。今井事務局次長。

【事局次長】次回は3月26日日曜日午後1時30分からにぎわいプラザ4-1会議室で臨時会として開催させていただきます。

【委員長】次回は臨時会、3月26日金曜日13時30分よりここ4階会議室で開催します。

【閉 会】

以上で平成29年第3回中津川市教育委員会を閉会いたします。

〔 閉 会 （午後3時23分） 〕